



■ 地域特性（多摩広域拠点域）

項目	地域特性
人口・高齢化	○ 2040年までの人口推計は、年少人口・生産年齢人口が減少する一方、高齢者人口は増加
公共交通の現状	○ 公共交通圏域における総人口のカバー率は約90%であるが、圏域外の人口が一定数存在
道路混雑の状況	○ 混雑度別の道路延長は、混雑度1以上の道路が他の地域と比べて最も高く、約6割を占める
土地利用の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 業務施設は、鉄道駅から離れた業務取引先が一定程度存在 ○ 商業施設は、複数の鉄道が結節する鉄道駅周辺に集積 ○ 医療・福祉施設は、概ね鉄道・バス圏域内に立地 ○ 住宅団地内に丘陵地があり、買物・通院時での移動負担が懸念される ○ 観光施設は、半数程度が鉄道圏域外に立地
交通手段の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通勤・通学目的は、鉄道の利用が多い 鉄道駅までのアクセス（鉄道端末の交通手段）は徒歩が多く、次いでバスが他の地域より高い ○ 業務目的は、乗用車の利用が多い ○ 買物目的は、乗用車の利用が多い ○ 通院・通所目的は、乗用車の利用が多い 鉄道駅までのアクセス（鉄道端末の交通手段）は、バスが他の地域より高い ○ 自動運転の利用意向調査によると、業務目的は鉄道駅から取引先までの移動手段としてタクシー、医療・福祉目的はバスのニーズが高い
物流業界の状況	○ eコマースの普及により、貨物輸送の小口化・宅配需要が増大する一方、物流業界の運転者・労働者不足が懸念される

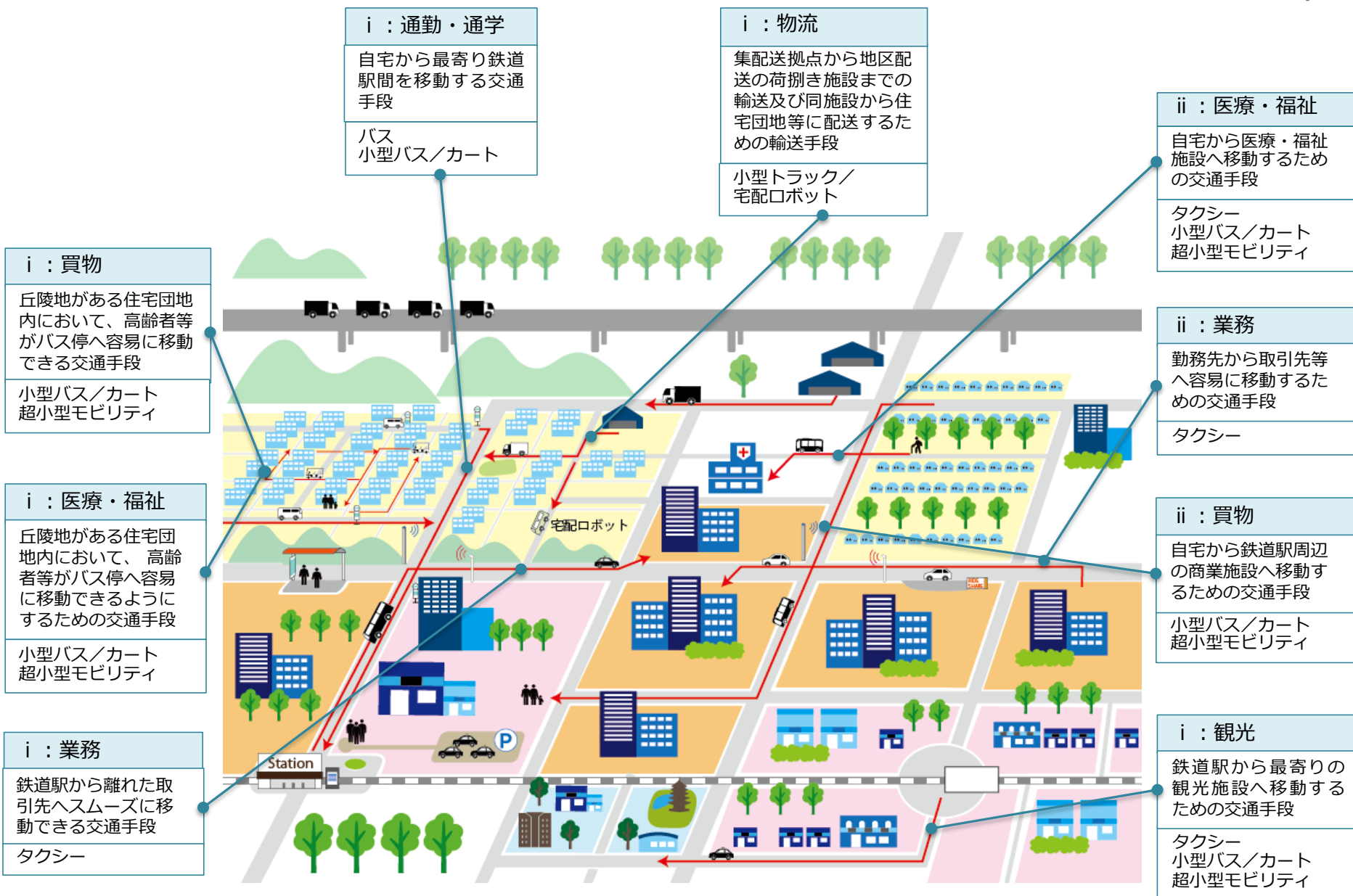


■ 自動運転の活用の方向性（多摩広域拠点域）

目的	地域の交通課題	自動運転の活用の方向性
通勤 通学	○ 鉄道駅まで移動できる交通環境の形成が必要	i. 自宅から最寄り鉄道駅間を移動する交通手段
業務	○ 鉄道駅から離れた取引先へ移動できる交通環境の形成が必要 ○ 勤務先から取引先へ移動できる交通環境の形成が必要	i. 鉄道駅から離れた取引先等へスムーズに移動できる交通手段 ii. 勤務先から取引先へ容易に移動するための交通手段
買物	○ 丘陵地がある住宅団地内において、路線バスへ高齢者等が容易に移動できる交通環境の形成が必要 ○ 高齢者等が容易に鉄道駅周辺の商業施設へ移動できる交通環境の形成が必要	i. 丘陵地がある住宅団地内において、高齢者等がバス停へ容易に移動できる交通手段 ii. 自宅から鉄道駅周辺の商業施設へ移動するための交通手段
医療 福祉	○ 丘陵地がある住宅団地内において、路線バスへ高齢者等でも容易に移動できる交通環境の形成が必要 ○ 高齢者等が容易に医療・福祉施設に移動できる交通環境の形成が必要	i. 丘陵地がある住宅団地内において、高齢者等がバス停へ容易に移動できる交通手段 ii. 自宅から医療・福祉施設へ移動するための交通手段
観光	○ 鉄道駅から離れた観光施設へ容易に移動できる環境の形成が必要	i. 鉄道駅から最寄りの観光施設へ移動するための交通手段
物流	○ 貨物の小口化の進行や人手不足に対応するために、地区内の輸送の効率化が必要	i. 集配送拠点から地区配送の荷捌き施設までの輸送及び同施設から住宅団地等に配送するための輸送手段



■ 自動運転技術の活用イメージ（多摩広域拠点域）





■ 地域特性（自然環境共生域）

項目	地域特性内容
人口・高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2040年までの人口推計は、年少人口・生産年齢人口が減少する一方、高齢者人口は増加 ○ 運転免許保有率は、他の地域と比べて高いものの返納率は低いため、自家用車の必要性が高い地域である
公共交通の現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共交通圏域における総人口のカバー率は約80%であり、他の地域と比べて最も低い
道路混雑の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 混雑度別の道路延長は、混雑度が1未満の道路が約8割を占める
土地利用の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林地域が多く、山間部や鉄道沿線に人口が分布 ○ 業務施設・従業員人口は鉄道駅周辺に分布 ○ 買物困難者の割合は、北部地区（青梅市等）で高い ○ 医療・福祉施設は、公共交通圏域に分布している一方、高齢者の居住地は圏域外にも分布 ○ 観光施設は、自然環境等を活かした森林地域に多く立地
交通手段の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通勤通学・業務目的は、乗用車の利用が多い 鉄道駅までのアクセス（鉄道端末の交通手段）では徒歩が多く、次いで自転車・乗用車が高い ○ 買物目的は、乗用車の利用が多い 鉄道駅までのアクセス（鉄道端末の交通手段）は徒歩が多い ○ 通院・通所目的は、乗用車の利用が多い ○ 自動運転の利用意向調査によると、通院・通所目的は自家用車・送迎バス、物流は「宅配車により自宅に届けてくれるサービス」のニーズが高い
物流業界の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ eコマースの普及により、貨物輸送の小口化・宅配需要が増大する一方、物流業界の運転者・労働者不足が懸念される



■ 自動運転の活用の方向性（自然環境共生域）

目的	地域の交通課題	自動運転の活用の方向性
通勤 通学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自宅から最寄りの鉄道駅やバス停まで容易に移動できる交通環境の形成が必要 ○ 誰でも不自由なく通勤できる交通環境の形成が必要 	<ul style="list-style-type: none"> i. 道路幅員が狭い地域における鉄道駅やバス停への交通手段 ii. 自宅から勤務先へ移動するための交通手段
業務	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄道駅から離れた取引先へのアクセス性の向上が必要 	<ul style="list-style-type: none"> i. 鉄道駅から離れた取引先等へ移動するための交通手段
買物	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者等が容易に商業施設に移動できる交通環境の形成が必要 ○ 自宅から基幹的な公共交通までアクセス可能な交通環境の形成が必要 	<ul style="list-style-type: none"> i. 自宅から最寄りの商業施設へ移動するための交通手段 ii. 自宅から基幹的な公共交通へ移動するための交通手段
医療 福祉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者等が容易に医療・福祉施設に移動できる交通環境の形成が必要 ○ 自宅から基幹的な公共交通までアクセス可能な交通環境の形成が必要 	<ul style="list-style-type: none"> i. 自宅から最寄りの医療・福祉施設へ移動するための交通手段 ii. 自宅から基幹的な公共交通へ移動するための交通手段
観光	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄道駅やバス停から離れた観光地へ容易に移動できる交通環境の形成が必要 	<ul style="list-style-type: none"> i. 鉄道駅やバス停から離れた観光地へ容易に移動できる交通手段
物流	<ul style="list-style-type: none"> ○ 貨物の小口化の進行や人手不足に対応するために、地区内の輸送の効率化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> i. 集配送拠点から地区配送の荷捌き施設までの輸送及び同施設から需要が少ない地域の居住者等に配送するための輸送手段



■ 自動運転技術の活用イメージ（自然環境共生域）

